

# 質問形式での対応内容を含んだ被災者名簿作成支援システム

1200341 中尾 友紀 【 ネットワーク信号処理研究室 】

## 1 はじめに

大規模な災害発生時、大勢の被災者に対し効果的な医療対応が行えるよう、指定された場所に災害救護活動拠点が設置される。災害救護活動拠点では複数のエリアごとに医療内容が分かれており、被災者の状況に応じて対応を行う。被災者名簿は各エリアで作成が行われ、処置内容などが記載される。各エリアごとに紙で名簿作成を行う場合、エリア間で名簿情報を共有できないため、同一の情報を別のエリアでも記入することとなる。

そこで、被災者名簿を電子化しエリア間で情報共有ができる被災者名簿データベースが提案された [1]。このデータベースシステムでは、情報の重複入力をなくし、紙の名簿を集計する手間を省くことができる。しかし、システムを用いた名簿作成では入力すべき情報や入力形式が分かりづらいといった問題がある。そのため、本研究では、受付での被災者対応と名簿作成を考慮した被災者名簿の入力支援システムを提案する。

## 2 災害救護活動拠点における被災者名簿作成

災害救護活動拠点では、総合受付で被災者名簿を作成し、被災者の状況に応じて処置エリアに被災者の振り分けを行う。総合受付での対応や処置エリアを図 1 に示す。

2019 年 8 月 24 日に実施した広域ネットワーク防災訓練において受付のシミュレーションとして紙媒体での名簿作成を行った [2]。課題として、名簿情報の共有ができないため名簿作成に時間がかかる、どの項目にどのように記載するのか決まっておらず書き方が統一されていないといった問題点があげられた。

名簿作成の問題を解決するため、名簿情報を電子化してエリア内で共有するシステムが提案されている [1]。しかし、情報入力の際どの情報を入力すべきなのかが分かりづらい。そのため名簿情報の入力形式を定める必要がある。

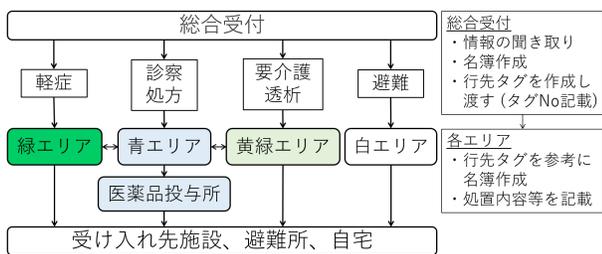


図 1 各エリアと被災者の流れ

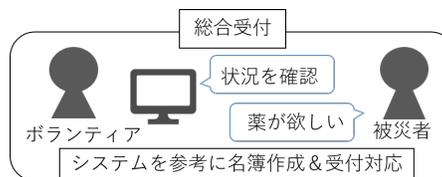


図 2 支援システムと名簿共有

行き先エリア

- 緑 負傷 (怪我あり)
- 青 診察、処方 (薬)
- 黄緑 透析、要介護 (認知症など、別の施設への移動や対応が必要)
- 白 避難、安否確認、物資要請、ボランティア希望

戻る 次へ

---

入力 被災者の状態 (フレトリアージ) に応じて行き先エリアの一つ選択。

図 3 入力システムの例

## 3 被災者名簿作成支援システム

データベースシステムの改良として、正確な形式で情報を登録できるようシステムを検討する。入力項目や入力形式を決めるため、重要項目を定め、どのような情報が必要なのか検討し、入力する情報や順番を決める。具体的には、総合受付はボランティアが対応を行うため、図 2 のように被災者の対応がスムーズにできるよう、対応内容を考慮する。また、図 3 のように入力項目を決めて情報を聞き出し、被災者対応を行う。加えて、名簿作成の際にどの情報をどのように入力するか考慮し名簿作成を行えるようにする。

## 4 まとめ

本研究では、総合受付での入力を簡単にし、また有用なデータを残すため、入力形式や入力項目を定めた被災者名簿作成支援システムを提案した。今後は、キーボードの操作に不慣れな人でも簡単に入力を行えるようなユーザインタフェースにすることが求められる。

## 参考文献

[1] 那須裕太, “災害時医療拠点における被災者名簿作成データベース,” 平成 27 年度 高知工科大学 情報学群 プロジェクト研究報告書, 2016 .

[2] 福本昌弘, 山本寛, 秋山豊和, 鈴木陽一, 山崎克之, “広域ネットワーク防災訓練,” 電子情報通信学会 インターネットアーキテクチャ研究会, 2019 年 11 月 .